

指導部だより

指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 横田雅博

今回は、「都立高校学力スタンダード」に関することをお話します。現在、中央教育審議会では、教育再生実行会議の第四次提言を受けて以降、「達成度テスト（基礎レベル）」及び「達成度テスト（発展レベル）」の在り方についての検討を重ねています。

その内、基礎レベルについては、高等学校教育部会が「高校教育の質の確保・向上に向け、生徒が、自らの高校教育における基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を証明することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図ることを目的とする高校教育の達成度テスト(基礎レベル)を実施する。」としています。

東京都が平成 25 年度から取り組んでいる「都立高校学力スタンダード」は、まさに学力の定着と伸長を図るために、学習指導要領の内容・項目ごとに具体的な学習目標を示し、これをもとに自校の学力スタンダードを作成し、組織的・効果的な指導を行うものです。

そして、学期ごとの定期考査や年度末の学力調査（都教育委員会作成）などを総合的に活用し、到達すべき目標に達していない場合は年度内に繰り返し指導を行い、学力の定着を図ります。

平成 25 年度の都立高校学力スタンダード推進校 32 校は、自校の学力スタンダードに基づき指導を行い、2 月に学力調査を実施しました。3 月に結果が返却されて、学力定着状況を把握し、目標の設定や指導方法などの改善に取り組みます。

今年度、数学Ⅰに加えて、学力スタンダード作成委員会で数学Ⅱ、更に研究開発委員会で「学力スタンダード(学び直し)」を作成しました。数学Ⅱの作成に当たっては、数学Ⅰの学力スタンダードを踏まえ、作成委員の所属校の 2 年生を想定し、新たに、数学Ⅱの「基礎」・「応用」・「発展」のそれぞれ内容項目と例題について、議論・検討を重ねて作成しました。さらに、数学Ⅰについても、文言の整理や例題の修正・追加を行い見直しました。

「学力スタンダード(学び直し)」では、まず、義務教育段階の内容と高等学校の内容の関連性を体系的に見直しました。その次に、高等学校での学習に必要な義務教育段階の内容の重点ポイントを把握し、「学力スタンダード(学び直し)」を開発しました。今後の課題としては、学び直しの教材開発や指導計画、学び直しの定着度を図る方法などについて、研究及び開発が挙げられます。

平成 26 年度からの全都立高校での実施の際には、平成 26 年度版学力スタンダードを参照していただき、自校の学力スタンダードを作成します。ただし、来年度の大学入試から「データの分析」も扱われ、今後、学力スタンダードの見直しや加筆も必要になってくることが予想されます。都数研の会員の皆様には、五つの分科会のどこかで、学力スタンダードの実践・研究をお願いし、御意見をいただきたいと考えます。

結びに、教育研究員及び研究開発委員の研究発表に御参加いただいた都数研の会員の皆様には、貴重な御意見・ご教示を賜りました。深く感謝いたします。

東京都教職員研修センターだより

研修部教育経営課 統括指導主事 板澤健一

第 1 回で御紹介させていただいた、東京都教職員研修センターの教科基礎調査研究の成果をお知らせします。算数・数学では、「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成する指導の在り方」を研究主題として進めてきました。

小学校、中学校及び高等学校での調査を通して、次の 4 点を各校種の授業に取り入れることが重要であることが分かりました。

- 1 答えを予想したり、多様な考え方を見いだしたりする場面の意図的な設定
- 2 思考力・判断力を向上させるための学び合いの場の設定
- 3 自分の考えを説明し合う活動の効果的な位置付けの工夫
- 4 日常生活で算数・数学が活用されている場面の教材化

以上 4 点について、小学校、中学校及び高等学校で検証授業を実施し、授業改善の方向として二つの提案を行いました。

提案①【系統表】の活用

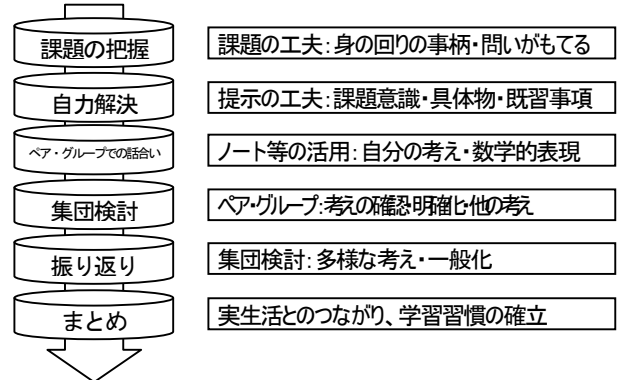
それぞれの校種で大切にしている学力観が見える資料として作成

| | 小学校 | | | 中学校 | 高等学校 |
|---------|------------------------------|------|------|--------------------------------|------|
| | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 | | |
| 問題解決能力 | 身の回りの事象から課題を見だし、主体的・積極的に関わる力 | | | 各校種の発達段階に応じて、身に付けさせたい力を示しています。 | |
| 発展的思考力 | 算数・数学の必要性や有用性を、実感を伴って理解する力 | | | | |
| 数学的思考力 | 算数・数学の考え方にに基づき、自らの考えを決定する力 | | | | |
| 論理的思考力 | 根拠を明らかにし、筋道を立てて表現したり説明したりする力 | | | | |
| 表現方法活用力 | 算数・数学的な表現を用いて、伝える力・伝え合う力 | | | | |

この表の活用により、教師が「算数・数学で身に付けさせたい力」を意識し、日々の授業の展開に生かしていくことができる。さらに、指導している児童・生徒の発達段階の前後を知り、どのような指導の在り方が望まれるのかなどを明らかにすることができる。

提案②【学習過程(1単位時間の流れ)】の工夫

校種や学習内容に合った指導において留意したい授業の流れ



小学校・中学校・高等学校において、上記のような継続的な指導を行うことで、児童・生徒が自分で学ぶ力や知識及び技能を身に付けることができる。

ぜひ、これらの研究の成果を、先生方の日々の授業改善に生かしていただきたいと思います。詳しい内容等は東京都教職員研修センターのホームページを御覧ください。